

VIV-ARTE®

キネステティック・プラス

トレーニング
プログラム

Menschen bewegen - Perspektiven geben



VIV-ARTE®
KINESTHETIC-PLUS

SCHOOL OF MOVEMENT
Heidi Bauder Mißbach
Gartenweg 13
D-89176 Asselfingen

Fon: +49 (0) 73 45 / 92 13 15
Fax: +49 (0) 73 45 / 23 78 20
E-Mail: info@viv-arte.com
www.viv-arte.com
www.journal.kinaesthetik.net

ADDRESS IN JAPAN
LAC HEALTHCARE LTD
President: Yusuke Hanafusa

Head Office
10-2, Minami-semba chome,
Chuo-ku,
Osaka 542-0081, Japan

Phone : +81-(0)6-6244-0636
Fax. +81-(0)6-6244-0836
URL : http://www.lac-hc.co.jp
E-mail : info@lac-hc.co.jp

申し込みについて

申し込みは専用フォームにてお申し込みください。

基礎 コースは、研修開始の3週間前までに、アドバンスコースは6週間前までに申し込みください。

- 基礎 コース:個別申し込み可
- モジュール11-15:一括申し込み
- モジュール21-22:一括申し込み
- モジュール23-24:一括申し込み

お申し込み後、予約受付票を返信します。万が一定員に到達している場合は、早急にその旨をご連絡します。各コースとも最低開催人数に達しましたら、研修会の詳細とともに、最終の申込み受理のご連絡を差し上げます。その他やむを得ず開催できない場合も、ご連絡差し上げます。

アドバンスコースは申込み受理后、受付確認書を送付します。正式な申込書類を受理后4週間以内に申込登録証を送付します。

キャンセル料について(基礎 コース):

正式なお申込完了後のキャンセルについては、以下に基づきキャンセル料が発生します。

- 申し込み完了後14日間まで:登録料25ユーロ
- それ以降から研修会初日の14日前まで:受講料の20%
- 研修会初日の14日前以内:受講料の40%
- 研修開始後:受講料の全額(やむを得ない理由を除く)

キャンセル料について(アドバンスコース):

正式なお申込完了後のキャンセルについては、以下に基づきキャンセル料が発生します。

- 申込登録証を受領後研修初日の8週間前まで:受講料の20%
- 研修初日の8週間以内:受講料の40%
- 研修開始後:受講料の100%
- 体調が悪くなるなど途中で受講を中止せざるを得ない場合は、次回以降に継続できます
- その他個人的な理由により受講を中止する場合、未受講分の受講料を他の研修会の受講料へ充当できません(期限2年)。



皆様へ

VIV-ARTE®(ヴイ・アルテ)では、1998年より看護師や家族介助者のための研修を行っています。VIV-ARTE®は生きる術を意味し、シンボルのクロヒヨウは介助者と患者/クライアントが作る動きの質、ともに動く喜びを表しています。

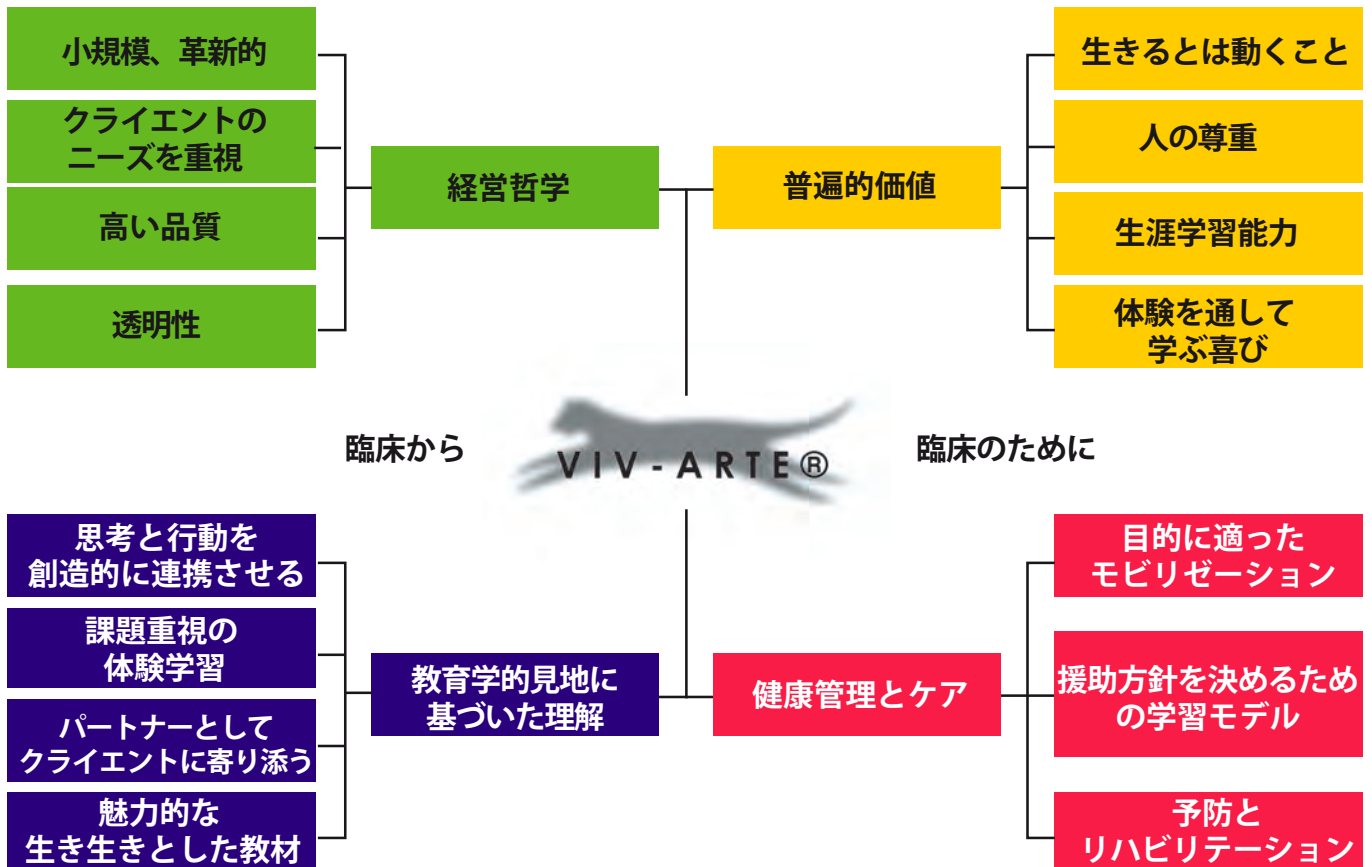
VIV-ARTE®は、ウルム大学病院と共同でキネステティックの概念によるモビリゼーションの分野における革新的取り組みを多岐にわたって行っています。皆様お一人お一人の専門分野に基づき効果的にトレーニングすることができます。現場の看護師への日々の監督指導が非常に重要だと考えています、このため2000年よりキネステティック・モビリゼーションのアドバイザーおよびインストラクターの養成を行なっています。

VIV-ARTE®の全ての研修は、実践形式で行なわれます。従って、習得した技術を即、現場で生かすことができます。これはマネジメントにおいても利点になります。臨床現場での研修はコストと時間の節約になります。受講するスタッフの仕事の質が上がることで、職場全体のやりがいも高まります。適切なトレーニングを行なうことで、よい結果が生まれるのです。

VIV-ARTE®は、研修プログラムをさらに発展させていきます。皆様には常に新しい情報を提供してまいります。

VIV-ARTE® SCHOOL OF MOVEMENT
ハイディ・パウダー ミスバッハ
スタッフ一同

理念



VIV-ARTE® キネステイク・プラス

「看護における重要な目標の1つは、クライアントの自立を維持または出来る限り回復させ、動きに制約があっても生活でき、さらには新しいQOLを見出すのを可能にすることである。」

(引用:ウルム大学病院看護理念)

キネステイク・モビリゼーションのトレーニングをおこなえば、予防的かつリハビリ的ケアを社会、法律、医学のニーズと関連させることができます。

キネステイク・モビリゼーションの動きを引き出す方法は、社会的作用として身体的、心理的機能をサポートします。

動くとは生きること、生きるとは動くこと。思考、行動、生存におけるすべての相互作用が動きのプロセスです。動くことやモビリゼーションは、障害のある人にとっては基本的な欲求であり、回復期においては必須です。回復プロセスのためのモビリゼーションは本来もっと優先されるべきことであり、それに費やされる時間ももっと必要です。体位変換や移乗、清拭、食事・着替え・排泄介助などの一見シンプルなケアも動きとつながっています。動くことで次のような改善が期待できます：

- 身体の健康
- ストレスや不安が軽減する
- 自分の身体への自信がつく
- 新陳代謝が活性化する

疾病時に動かないことで他の病気を併発するリスクが高まります。動きが少ないことで起こる最も一般的な合併症は、褥瘡と拘縮です。筋力低下、関節痛、神経障害、便秘症、体力低下、肺炎、浮腫、骨粗しょう症に関しては、動きを活性化させ、移動性を早期に改善することで顕著な違いが見られます。

キネステイク・モビリゼーションは看護スタッフの求める腰部に負担をかけない作業条件に沿うものであり、障害者はより良い日常生活を日々送ることができます。

左の写真は、四肢麻痺(C4)患者を車へ移乗しているものです。連続的に体重を移動させながら、同時にダンスのように互いに誘導しながら動きに追従する方法がベースになっています。このためキネステイク・モビリゼーションを学ぶ人は自分の身体認知に敏感でなければいけません。

従来からのモビリゼーションには維持・改善の要素がありません

こちらは、一般的な移動の写真です。集中治療室の人工呼吸器をつけた患者が1枚のシーツを使ってベッド上を頭部方向へ動かされています。早く移動させるという目的には適っているものの、この方法では患者も看護スタッフも何も得られません。このような移動は、予防的かつリハビリ的方法でされなければいけません。またこの方法では、看護スタッフは腰部や肩の痛みを悩まされることになります。

キネステイクによる移動では改善されます

この写真は、同じ患者の移動の様子です。運動生理学に基づいた自然な動きでベッドの上方に動かされています。キネステイクを使った移動は、より時間がかかり複合的です。動かすときは軽い負荷でクライアントの多くの筋肉や関節を使い、クライアント自身が自分で動けるよう刺激します。



モビリゼーションの最中にクライアントと看護スタッフの間で相互の習得プロセスが生まれます。

キネステティック・モビリゼーションには、動きの準備としてのウォームアップと、身体全体にかかる圧を左右対称に分散し、和らげるためのクールダウンが含まれます。

よって、キネステティック・モビリゼーションでは次の理念を追求しています。

動くとは生きること

動くことが生きることであるならば

動くことを改善することは

生きることの改善に他なりません!

キネステティック・モビリゼーションのトレーニングの目標

VIV-ARTE®の講習を通して移動性の維持・改善のための方法を見だし、実践することを習得していただきます。

その知識を基に個別の目標や一般的目標を達成してください。

1. リハビリテーション

麻痺のある患者のための特別なプログラムを考案し、4年にわたり様々なリハビリ病院や、また障害者に対応していない場所でも試してきました。

適切なサポート

家族や介助をサポートする人が、障害のある人たちを専門的かつ腰に負担無く移動させる方法を学びます。右の写真は床から車いすへ介助している様子です。

痙性の軽減

10回キネステティックをおこなったあとの観察から次の結果が見られます。

- 痙性への影響はプラスになる
- 痙性緩和の薬の摂取量が減少する
- バランス能力が改善される
- 循環の問題が少なくなる

セルフコントロールの確立

自立した姿勢や体位の変換および移乗に必要な協調能力が比較的早く得られます。これはセルフコントロールに必要不可欠なことです。

2. 集中治療

これまで研修をおこなってきたすべての病院の集中治療室から、患者がより動ける状態で一般病棟に戻ったという報告を受けています。

不安定な患者

不安定な患者でも一般的な移動方法よりキネステティックによる移動への耐性のほうが大きいです。ウルム大学病院の集中治療室における研究で、Udo Wihlenda氏は人工呼吸器をつけた状態の不安定な患者15人に対しキネステティック・モビリゼーションと一般的なモビリゼーションの効果を比較しました。ベッド上の頭部方向への移動で分析し、動く前、途中、15分後の3回動脈の血圧を測定し平均を出しました。一般的な方法でおこなったグループはモビリゼーションの最中、明らかに血圧の上昇が見られたものの、キネステティックのグループではどの段階においてもほぼ安定していました。





Marius Hirsch

www.journal.kinaesthetik.net



3. 外科

外科の患者には、重大な手術後であってもほとんど痛みがなく動くことが可能になることから、手術前に行われるモビリゼーションに基づいた動き方の指導は高く評価されています。

4. 集中治療室(外科)

1999年から2000年にウルム大学病院では、104人の動脈のバイパス手術を受けた患者でキネステティックと普通のモビリゼーションの効果を研究しました。もっとも明確な違いが見られたのは、最初のモビリゼーション後の鎮痛剤の必要程度でした。キネステティックのグループでは16%の患者がモビリゼーション後は鎮痛剤を減らすことができました。

(Buch Kinästhetische Mobilisation, Eisenschink et al., Schlütersche Verlagsgesellschaft, ISBN 3-87706-736-0)

5. 病気等による欠勤の減少

1999年から2001年のハイデンハイム病院の看護師の病気等による欠勤件数が調べられました(健康増進活動拠点病院HPHのコンテスト)。キネステティック・モビリゼーション(モジュール1-3)の講習後には、件数に大幅な減少が見られました。

6. 老年医学

褥瘡、拘縮、転倒のリスクを下げ、移動性をより長く保つことが可能です。キネステティックをおこなうことで、拘縮のある患者が前より容易にベッドから起き上がれるようになり、日常生活能力が回復することは過去の事例からも明らかです。

7. 精神医学

精神科の看護でもキネステティックモデルの効果は認められます。うつや心身症のクライアントからプラスの効果が見られた事例は複数あります。

方法としては身体的なかかわり合いのトレーニングに加え、身体意識を高め、協調能や平衡能および関係性構築をトレーニングすることです。

8. 体位保持用品の削減

適切なモビリゼーションをおこなえば、高価なポジショニング用具は必要ありません。ウルム大学病院の研究によると、1992年から1999年にかけて全スタッフの講習の結果、高機能マットレスのレンタルコストを大幅に削減することができました。

9. 楽しみながら学ぶ

受講者は講習を楽しみにしてきます。実践を通して学ぶことは楽しく、多種多様なグループではとても効果のあることです。こちらの写真はセミナー「在宅での介護」の様子です。バランス能力をトレーニングしているところです。

まとめ

一緒に習得、実施、見直しをしてきた動きは、クライアントと介助者の双方にとって常に学習と改善と予防であると言えます。

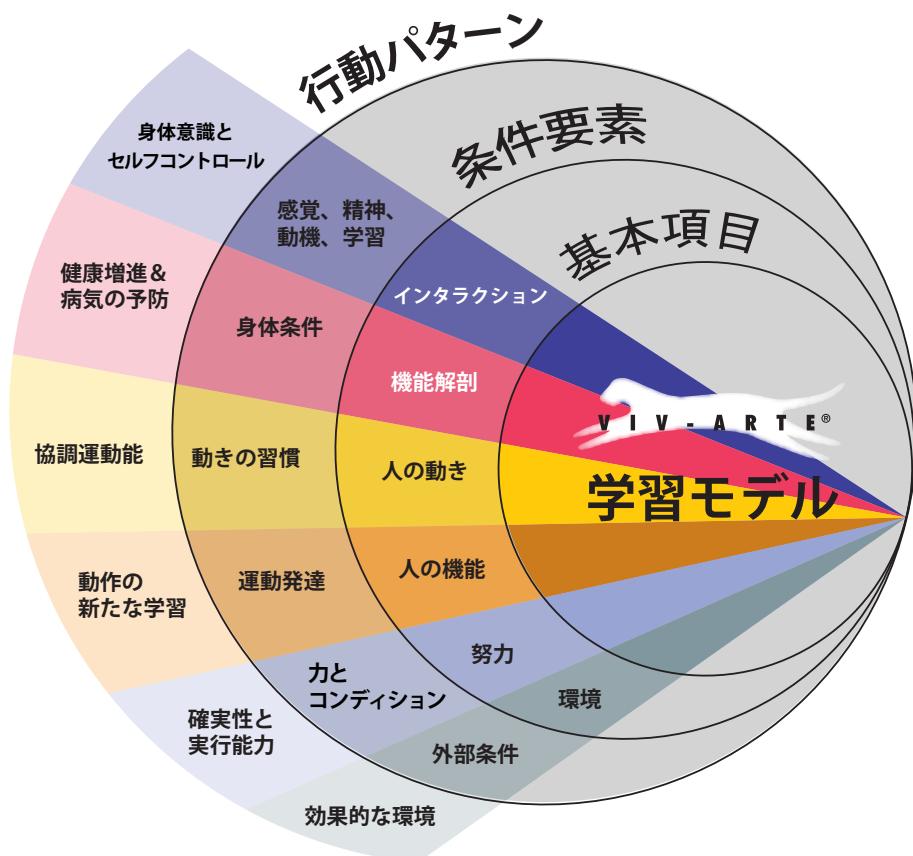
キネステティック・モビリゼーションにより次のことが実現できます：

- 患者の動きを維持し、改善する
- 看護スタッフ/介助者の欠勤を最小限にする
- 予防のための処置とモビリゼーションを結びつけることで時間の節約につながる
- 用具にかかるコストを削減できる
- 看護/介助の継続性を確保できる

看護スタッフ/介助者の能力が高まることで、

- クライアントのニーズを見極める

VIV-ARTE® の学習モデル



VIV-ARTE®の学習モデルは、動きの基本を6つの原理と18の小項目を、基本項目・条件要素・行動パターンの3つの動きの基準に分けて表されます。これらに関連させながら、一人ひとりの動きのパターンに集中してケアを学びます。トレーニングに出てくる動きの基本はパズルのピースとしてとらえると理解しやすいでしょう。この3段階に含まれるすべてのピースを使って考え行動することは非常に複合的な課題となります。

VIV-ARTE®学習モデルに則ったキネステティック・モビリゼーションの学習過程に含まれるポイント：

- 動きの基本を自分で体験する
- 一人ひとりの動きの可能性をアセスメントする
- 看護理論と関連づける(予防的、リハビリ的要求)
- ケアの内容を発展させ見直ししながら、最適化し、説明する

キネステティック・モビリゼーションの習得は、長いプロセスになりますが、学習初期段階から有効性を感じられます。

個人に合わせたモビリゼーション計画を作成するためには、内側の円から選択した基本項目を、真ん中の円にあるクライアントの条件要素と結びつけて、外側の円に示される行動パターンを適応させていくことになります。

このように、個人に合わせたモビリゼーション計画を作成し、安全性、効果、健康状態の改善を評価しながら臨床現場へ取り入れられます。

学習内容の指導

理論的内容は、自己体験およびパートナーとの体験を通して伝えられます。

VIV-ARTE® に登録されているインストラクターが認知的徒弟制(介助現場で課題となっている状況を取り上げて、最初は援助しながら徐々に学習者の自立を促す)の基本原則に基づいて授業を行います。学んだ内容は早速基礎モジュールの臨床実習において介助現場で初めて応用します。

品質保証

VIV-ARTE® 動きの学校は、DIN ISO 9001の認証を取得しています。登録されているVIV-ARTE®インストラクターがプロセス規定に従い、クライアントの知見とニーズに応じて適応させながら基本モジュールの授業を行います。介助現場における継続的な指導とアドバイスは、VIV-ARTE®アドバイザーおよびインストラクターが担当します。

登録されている VIV-ARTE®インストラクターおよびアドバイザーの質は、登録手続きによって保証しています。クライアントのQOLと健康こそが最大の関心事です。

教育課程

VIV-ARTE®キネステティック・プラスの教育プログラムは、4つの基礎モジュール、臨床相談とワークショップ、およびそれらの授業を行えるようになるための上級課程と各種講習から構成されています。

VIV-ARTE® キネステティック・プラス 専門スタッフ	VIV-ARTE® キネステティック・プラス アドバイザー	VIV-ARTE® キネステティック・プラス インストラクター
----------------------------------	----------------------------------	------------------------------------

目標

受講生は日常作業とキネステティック・モビリゼーションの基礎を統合する方法を学習します。

目標

アドバイザーはモジュール1-4の修了者に対し必要とされる動きやモビリゼーションを指導します。

目標

インストラクターはキネステティック・モビリゼーション専門スタッフ育成のための講習を行う能力を習得します。

モジュール 1 授業 7時間 臨床実習 1回	モジュール 11 授業 19時間 臨床実習 2回	モジュール 21 授業 64時間 監督指導 9時間
モジュール 2 授業 12時間 臨床実習 3回	モジュール 12 授業 18時間 臨床実習 3回	モジュール 22 授業 96時間 監督指導 18時間
モジュール 3 授業 12時間 臨床実習 3回	モジュール 13 授業 18時間 臨床実習 3回	モジュール 23 授業 96時間 監督指導 18時間
モジュール 4 授業 7回 臨床実習 1回	モジュール 14 授業 18時間 臨床実習 3回	モジュール 24 授業 64時間 監督指導 9時間

試験:

本課程は、専門レポートを提出して修了することも可

試験モジュール:

講習会場で3日間
本課程修了時に試験を行う。試験内容としては、臨床相談を患者を対象に、またワークショップ形式で行うことを含む。専門レポート提出も必須。

試験:

受講生の職場で6日間
各モジュール修了時に試験を行う。試験内容としては、監督指導4回、各基礎モジュール(M1-4)ごとに授業評価3回、各自の職場で行うワークショップおよび臨床指導9回、プロジェクト報告を含む。

総時間数:

モジュール1-4の全課程修了に要する時間数は、専門レポートを含め合計70時間

総時間数:

モジュール11-14の全課程修了に要する時間数は、宿題、臨床相談、専門レポートを含め合計230時間

総時間数:

モジュール21-24の全課程修了に要する時間数は、各自で行う授業、臨床相談、レポート提出を伴うプロジェクト作業を含め合計1200時間

修了後の教育過程:

モジュール別のワークショップ、リフレッシャーコース、追加の臨床指導、アドバイザー課程

修了後の教育課程:

各種講習、インストラクター課程

修了後の教育課程:

各種講習

VIV-ARTE® キネステティック・プラス 専門スタッフ養成課程

モジュール 1-4

VIV-ARTE® キネステティック・プラス専門スタッフはクライアントと直接的に関わりを持ちながら個人に合わせて計画された健康増進を促すモビリゼーション動作が日々適切に実施され記録されることに責任を持ちます。

専門スタッフは所属機関内でクライアントの移動性の継続的な改善を保証するものであり、介助の視点によるリハビリテーション給付のための法的要件は満たされる。(参照 § 5 SGB XI (2)).

モジュール1-4のトレーニングを通じて、VIV-ARTE®キネステティック・プラス専門スタッフはクライアントのあらゆる異なった移動の方法や能動的、部分能動的、受動的な身体の動きのサポートの仕方を学習します。これらの動きは身体の機能解剖学的原則と一致しています。キネステティック・モビリゼーションの実施により、介助者は以下の身体、精神、社会性という3つの機能領域において、個々の健康の増進や維持を促すことができます。

注力した動きのサポートはリハビリテーション的要素はもちろん予防的な効果ももたらします。

- 痛み、筋力低下、褥瘡、拘縮、肺炎の観点からクライアントに対する予防的な対策を担う
- 介助者を仕事上での筋骨格系の疾患から守る
- セルフケアの向上(クライアントの自立)
- 感覚システム、位置感覚、コミュニケーション、関係性のサポート

あらゆる専門分野の看護師、一般介助者、臨床指導員、教員、理学療法士、作業療法士

モビリゼーションの3段階

予防のためのモビリゼーション活動を、3段階(ウォーム・アップ、機能トレーニング、クール・ダウン)に分けて計画、実施、記録する

機能解剖

- 骨格系を介しての体重移動
- 身体部位を連続して動かす
- 身体と空間認識を一致させる

インタラクション

- 柔軟なハンドリング、正確な目視による追従、明確な口頭での指示

モビリゼーションの3段階

リハビリテーションとしてのモビリゼーション活動を、3段階(ウォーム・アップ、機能トレーニング、クール・ダウン)に分けて計画、実施、記録する

インタラクション

- 部分能動的な動きの指導

機能解剖

- 支える面と運ぶ面を動かす

努力

- 部分能動的な動きを通じて努力レベルを調節する
- 動きのコントロールを容易にするための押しと引きの一致

人の動き

- スパイラルな動きと平行な動きとは異なる条件の考慮
- クライアントの動き方の習慣を評価し、対応
- クライアントの健康状態に動きのパターンを合わせる

目標
モジュール 1-4

受講資格

モジュール 1
予防のための
モビリゼーション

運動生理学に基づいた
動き

授業 7 時間
臨床実習 1 回

モジュール 2
リハビリテーションとしての
モビリゼーション

個別の動きの
パターンへのアシスト

授業 12 時間
臨床実習 3 回

モジュール3 >
健康増進

クライアントのセルフ >
ケア能力の促進

授業 12 時間
臨床実習 3 回

モビリゼーションの3段階

健康増進のためのモビリゼーション活動を、3段階(ウォーム・アップ、機能トレーニング、クール・ダウン)に分けて計画、実施、記録する

人の機能

- クライアントの残存機能の評価
- 予防という観点を考慮したさまざまな快適な安静時体位を整える
- セルフコントロールを取り戻すための理想的前提条件となる、あるいは内臓機能を阻害しないように整えられた姿勢
- クライアントが自ら動くことを促すための体位変換の紹介

環境

- 正しいサポート用品の選択
- 適切なサポート用品の使用
- 補助する人とのチームワーク

モジュール4 >
効果的な健康増進

クライアントとの効果的な >
学習プロセス

授業 7 時間
臨床実習 1 回

モビリゼーションの3段階

移動性の促進を着衣や清拭などさまざまな介護者の作業に取り入れていく。

インタラクション

- クライアントの学習パターンに合わせて、情報の伝え方を改善する。
- クライアントと共に日常生活機能のセルフコントロールを回復する学習プロセスを計画、指導

人の動き

- セルフコントロールされた動き方を最適化するために協調運動をサポートする



VIV-ARTE® キネステティック・プラス アドバイザー養成課程

モジュール 11 - 14

VIV-ARTE®キネステティック・プラス アドバイザーは以下、モビリゼーションと関連した問題に対応できるようクライアントと直接関わりをもちます。

- 動きの診断
- 予防およびリハビリテーションのためのモビリゼーション計画の作成
- 必要とされる動きやモビリゼーション動作の介助者や親族への指導

アドバイザーは所属組織の中でモビリゼーションの質を確保する重要な役割を担います

- アドバイザーは、専門スタッフの資格取得前後の介助者へ臨床に同行、指導する
- アドバイザーは、組織内で“キネステティック・プラス専門スタッフ”講習が実施された後、臨床相談やワークショップを通じてキネステティックの手段の継続及び品質の確保を担う

VIV-ARTE®キネステティック・プラス アドバイザーは介助の質、スタッフの満足度、次のトレーニングのための準備、チームとしての継続性、病欠、コストの削減といったことに関して人的資源を建設的に投入する役目を担います。

- より繊細な身体意識を発達させる
- 専門家として、VIV-ARTE® 学習モデルを用いてさまざまなクライアントのためのモビリゼーションを構成、計画、実施する
- モビリゼーション計画に基づいて介助者や親族が実施できるように指導できる
- モジュール1-4を修了した介助者に対して臨床において助言やサポートを行い、付き添う
- 受講者の学習プロセスを品質チェックのために記録できる
- 基礎モジュールの学習内容を深めるためのワークショップ授業を行うことができる
- モビリゼーション標準が作成できる

1. 正式に認定され、登録された看護師、理学療法士、作業療法士
2. 6日間のキネステティック基本モジュール

モジュール 11: 予防のためのモビリゼーション

- Viv-Arte®学習モデル
- 全ての感覚を使った動きの正確なコミュニケーション
- 健常者の基本パターンから見て取れる生理学的な動きのデモンストレーション
- 予防のためのモビリゼーションの介助者への教育
- ワークショップの構成
- ワークショップ授業:モジュール 1 内容の補足

モジュール 12: リハビリテーションとしてのモビリゼーション

- モビリゼーション計画作成のための介助者の教育
- クライアント固有の問題に合わせたモビリゼーションのアドバイス及びトレーニング
- 健常者の様々な動きのパターンから見てとれる生理学的な動きのデモンストレーション
- ワークショップ授業:モジュール 2 内容の補足
- クライアントとの作業: 十分且つ充実した動きの診断の作成

< トレーニングプログラム
VIV-ARTE®
キネステティック・プラス
アドバイザー養成課程
モジュール 11-14

< 目標

< 受講資格

< モジュール 11

VIV-ARTE®アドバイザー
養成課程

3 日間

< モジュール 12

VIV-ARTE®アドバイザー
養成課程

3 日間

モジュール 13 >

VIV-ARTE®アドバイザー
養成課程

3日間

モジュール 13:健康増進

- クライエントの動きを促進するモビリゼーションの計画、実施、記録のアドバイスとトレーニング
- 維持・改善のためのデモンストレーション
- ワークショップ授業:モジュール 3 内容の補足
- クライエントとの作業:モビリゼーション計画の作成と介助者に対する指導 (介助処置の継続性の確保)

モジュール 14 >

VIV-ARTE®アドバイザー
養成課程

3日間

モジュール 14: 効果的な健康増進

- モビリゼーション計画の作成
- ワークショップ授業:モジュール 4 内容の補足
- 動きの統合を最適化するためのアドバイス/トレーニング
- クライエントに合わせた学習プロセスの指導をアドバイス/トレーニング

受講生の能力と学習プロセスは教育課程全体を通じて、継続的に評価されます。

試験モジュール >

試験

以下のスキルが監督指導の担当者によって評価されます。

- 全ての移動活動における基本パターンの説明とデモンストレーション
- 臨床現場のニーズに即したワークショップ授業
- 受講生と臨床へ同行し評価

総時間数 >

トレーニングプログラムは合計230時間になります。
(臨床現場のニーズに即した講習、臨床実習、職場での自習)

申し込み >

モジュール 11-14 は 1 セットとして申込されます。

申し込み専用フォームを下記までお送り下さい:

VIV-ARTE® KINESTHETIC-PLUS SCHOOL OF MOVEMENT

Heidi Bauder Mißbach
Gartenweg 13
D-89176 Asselfingen
Fon: +49 (0) 73 45 / 92 13 15
Fax: +49 (0) 73 45 / 23 78 20
E-Mail: info@viv-arte.com

ADDRESS IN JAPAN

LAC HEALTHCARE LTD
Head Office
Address : 10-2, Minami-semba 2chome, Chuo-ku, Osaka 542-0081, Japan
Phone : +81-(0)6-6244-0636
Fax. +81-(0)6-6244-0836
URL : http://www.lac-hc.co.jp
E-mail : info@lac-hc.co.jp

VIV-ARTE®キネステティック・プラス インストラクター レベル1-4 養成課程 モジュール 21-24

VIV-ARTE®キネステティック・プラス インストラクターは、全ての診療科の看護師や一般介助者にキネステティック・モビリゼーションの専門スタッフになるための講習を行うことができます。

所属組織はインストラクターに以下の役割を期待します。
キネステティック・モビリゼーションの基本モジュール1-4の教育

- チーム学習の計画と構成
- アドバイザーとして、手法や専門性と社会性に関わる能力の向上

インストラクターはキネステティック・モビリゼーションの品質確保のため、以下の重要な責任を担います。

- 経営陣やスタッフに対するコンセプト全体の説明
- チーム学習のためプロジェクト対象部門の選定において経営陣をサポートし、情報を選定された部門に提供
- チームの学習プロセスを継続的に観察
- 学習プロセスに合わせて、最適化のための計画を立案
- プロセスの進捗について経営陣やスタッフに継続的に報告
- チーム学習終了後は、モビリゼーションについて確立された品質持続の責任を担う

モジュール 21-24の目標

- より繊細な身体意識を発達させ、動きの理解を深める
- 意識して動きを誘導し、思い通りの動きに反映させるための協調能力の向上
- 講習と臨床のどちらでも身体を使った関係性を確実に構築できる
- VIV-ARTE® 学習モデルに基づき、重要な動きの要素を視覚化し、説明し、理解させることができる
- 臨床と授業において、VIV-ARTE® 学習モデルの基本項目、条件要素、行動パターンの3つレベルをリンクさせて実践、思考できる
- 認知的徒弟制を通じて、問題解決を志向する学習プロセスのに基づいた誘導と構成ができる
- モジュール1-4のチーム学習を高い品質で計画、指導し、Viv-Arte品質マネジメントガイドラインに従って実行できる
- 学習段階の計画で、所属機関に適切なアドバイスをすることができる
- VIV-ARTE® の書式を使用して、スタッフの学習プロセスの質を評価、記録や追加のトレーニングを計画することができる

モジュール 21/22 とモジュール 23/24 は1セットとして申込される。

< トレーニングプログラム
VIV-ARTE®
キネステティック・プラス
インストラクター
レベル1-4

<

目標

VIV-ARTE® インストラクター レベル 1 モジュール 21 A-E

ターゲットグループ	>	VIV-ARTE® キネステティック・プラス アドバイザー
テーマ	>	“VIV-ARTE® 品質マネジメントガイドラインに基づいて、予防としてのモビリゼーション (モジュール1)の講習を介助者に行うこと”
3日間	>	パート A: <ul style="list-style-type: none">モジュール1の指導をするために自分自身の身体意識をトレーニングする
2日間	>	パート B: <ul style="list-style-type: none">プロジェクト: 目標設定、戦略、手段の計画キネステティック: インタラクションと機能解剖という各原理の知識を補足する教育学: “認知的徒弟制”の基本トレーニング
2日間	>	パート C: <ul style="list-style-type: none">モジュール1の実践指導モジュール1の講習プロセスに関する品質マネジメントガイドライン
2日間	>	パート D: 受講生の勤務先 <ul style="list-style-type: none">職員、経営陣向けにViv-Arte の教育コンセプトについてのプレゼンテーションの作成
8日間	>	<ul style="list-style-type: none">勤務先でのモジュール1の講習経験
4日間	>	<ul style="list-style-type: none">ワークショップの実施と臨床実習
1日間	>	<ul style="list-style-type: none">トレーナーの監督指導下、勤務先でのモジュール1講習の実施
4日間	>	<ul style="list-style-type: none">自分自身の学習プロセスの記述
1日間	>	パート E: <ul style="list-style-type: none">プレゼンテーションを実施し、受講生の学習プロセスを再確認、新しい学習の目標を設定
総時間数	>	モジュール 21 は合計220時間になります。 (臨床現場のニーズに即した講習、監督指導、臨床と指導による学び)
試験	>	受講生の能力と学習プロセスは教育課程全体を通じて継続的に評価されます。 最終テストは以下を含みます。 <ul style="list-style-type: none">自分自身の学習プロセスの記述プレゼンテーションの企画立案と実施監督指導下で、VIV-ARTE® 品質マネジメントガイドラインに基づいたモジュール1講習の実施

VIV-ARTE® インストラクター レベル 2 モジュール 22 A-E

ターゲットグループ	>	VIV-ARTE® キネステティック・プラス インストラクター レベル 1
テーマ	>	“VIV-ARTE® 品質マネジメントガイドラインに基づいて、リハビリテーションとしてのモビリゼーション(モジュール2)の講習を介助者に行うこと”
3日間	>	パート A: <ul style="list-style-type: none">モジュール2の指導をするために自分自身の身体意識をトレーニングする。
5日間	>	パート B: <ul style="list-style-type: none">プロジェクト: モジュール1に従ってプロセス評価、学際的な情報の流れキネステティック: インタラクション、機能解剖、人の動き、努力という各原理の知識を補足する。動きの学習の基礎知識。教育学: “認知的徒弟制”を利用してモビリゼーションの指導法を伝える。

パートC:

- モジュール2の講習プロセスに関する品質マネジメントガイドライン
- モジュール2の実践指導

パートD: 受講生の勤務先

- スタッフへのアンケート調査の実施と評価
- モジュール1受講者10人の監督指導と評価
- モジュール1に関するプロセス評価
- 勤務先でのモジュール2の講習経験
- ワークショップの実施と臨床実習
- トレーナーの監督指導下、勤務先でのモジュール2講習の実施

パートE:

- プレゼンテーションを実施し、受講生の学習プロセスを再確認、新しい学習の目標を設定

モジュール22は総計350時間になります。(臨床現場のニーズに即した講習、監督指導、臨床と指導による学び)

受講生の能力や学習プロセスは教育課程全体を通じて継続的に評価されます。最終テストは以下を含みます。

- 自分自身の学習プロセスの記述
- 監督指導下で、Viv-Arte品質マネジメントガイドラインに基づいたモジュール2講習の実施

<	3日間
<	5日間
<	4日間
<	6日間
<	12日間
<	4日間
<	2日間
<	1日間
<	総時間数
<	試
験	

VIV-ARTE® インストラクター レベル3 モジュール23 A-E

VIV-ARTE® キネステティック・プラス インストラクター レベル2

“VIV-ARTE® 品質マネジメントガイドラインに基づいて、リハビリテーションとしてのモビリティセッション(モジュール3)の講習を介助者に行うこと”

パートA:

- モジュール3の指導をするために自分自身の身体意識をトレーニングする

パートB:

- プロジェクト:モジュール2に従ってプロセス評価、品質向上のための手法の計画
- キネステティック:人の機能と環境という各原理の知識を補足する
- 動きの発達の基礎知識

パートC:

- モジュール3の講習プロセスに関する品質マネジメントガイドライン
- モジュール3の実践指導

パートD: 受講生の勤務先

- モジュール2受講生15人の監督指導と評価
- モジュール2に関するプロセス評価
- 勤務先でのモジュール3の講習経験
- ワークショップの実施と臨床実習
- トレーナーの監督指導下、勤務先でのモジュール3講習の実施

パートE:

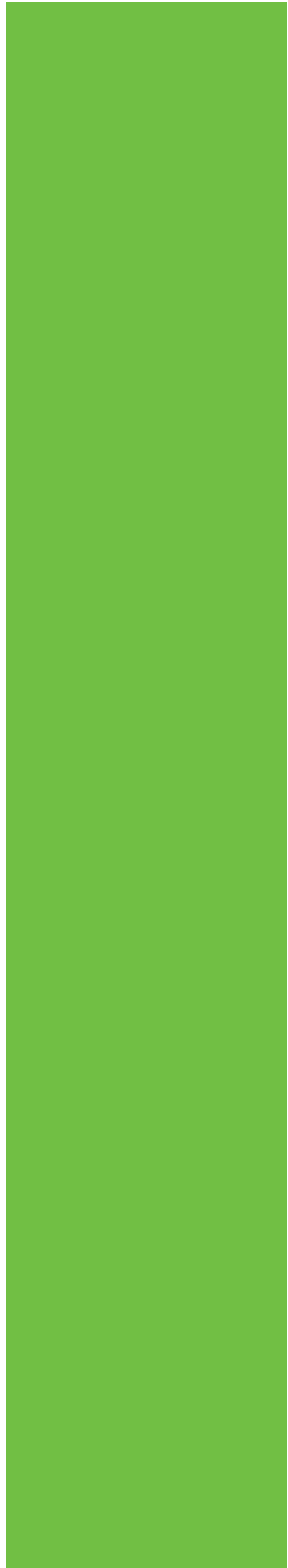
- プレゼンテーションを実施し、受講生の学習プロセスを再確認、新しい学習の目標を設定

<	ターゲットグループ
<	テーマ
<	3日間
<	5日間
<	3日間
<	4日間
<	8日間
<	12日間
<	6日間
<	2日間
<	2日間

総時間数	>	モジュール23 は合計350時間になります。 (臨床現場のニーズに即した講習、監督指導、臨床と指導による学び)
試験	>	受講生の能力や学習プロセスは教育課程全体を通じて継続的に評価されます。 最終テストは以下を含みます。 <ul style="list-style-type: none"> 自分自身の学習プロセスの記述 監督指導下で、VIV-ARTE® 品質マネジメントガイドラインに基づいたモジュール3講習の実施

VIV-ARTE® インストラクター レベル 4 モジュール 24 A-E

ターゲットグループ	>	VIV-ARTE® キネステティック・プラス インストラクター レベル 3
テーマ	>	“VIV-ARTE® 品質マネジメントガイドラインに基づいて、効果的な健康増進のためのモビリゼーション(モジュール4)の講習を介助者に行うこと”
3日間	>	パート A: <ul style="list-style-type: none"> モジュール 4 の指導をするために自分自身の身体意識をトレーニングする
2日間	>	パート B: <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト: モジュール 3 に従ってプロセス評価, 品質向上のための手法の計画 キネステティック:人の動きとインタラクションという各原理の知識を補足する 協調運動の基礎知識
2日間	>	パート C: <ul style="list-style-type: none"> モジュール 4 の講習プロセスに関する品質マネジメントガイドライン モジュール 4 の実践指導
6日間	>	パート D: 受講生の勤務先 <ul style="list-style-type: none"> モジュール 3 受講生10人の監督指導と評価
6日間	>	<ul style="list-style-type: none"> モジュール 3 に関するスタッフへのアンケート調査の実施
6日間	>	<ul style="list-style-type: none"> モジュール 3 に関するプロセス評価
8日間	>	<ul style="list-style-type: none"> 勤務先でのモジュール 4 の講習経験
4日間	>	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップの実施と臨床実習
1日間	>	<ul style="list-style-type: none"> トレーナーの監督指導下、勤務先でのモジュール 4 講習の実施
1日間	>	パート E: <ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションを実施し、受講生の学習プロセスを再確認
総時間数	>	モジュール24は合計280時間になります。 (臨床現場のニーズに即した講習、監督指導、臨床と指導による学び)
試験	>	受講生の能力や学習プロセスは教育課程全体を通じて継続的に評価されます。 最終テストは以下を含みます。 <ul style="list-style-type: none"> 自分自身の学習プロセスの記述 プレゼンテーションの企画立案と実施 監督指導下で、VIV-ARTE® 品質マネジメントガイドラインに基づいたモジュール4講習の実施



「キネステティック テキスト モジュール1 - 4」



動きを改善するための基礎

カテゴリー: BOOK 価格: 5,000円(税込)

講師: Heidi Bauer Missbach (ハイディ・パウダー・ミスバッハ) 女史

キネステティック・モビリゼーション専門スタッフ学習過程:モジュール1
- 4専用テキスト

モジュール1「予防のためのモビリゼーション」
モジュール2「リハビリとしてのモビリゼーション」
モジュール3「健康増進」
モジュール4「効果的な健康増進」



『キネステイク・モビリゼーションDVD』



動きを改善するための基礎

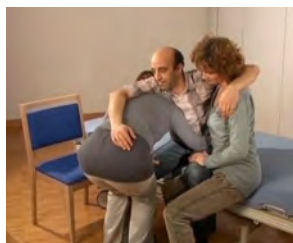
カテゴリー： DVD 価格： 6,000円(税込)

講師： Heidi Bauer Missbach (ハイディバウダー ミスバッハ) 女史

動きを改善するための基礎

内容

- ◎ “キネステイク”とは
- ◎ 自然な動きの理解
- ◎ 移動のための体重移動について
- ◎ 身体の種類について
- ◎ 基本パターンの紹介
 - 上方移動／横移動／側臥位／端座位／端座位→前方移動
 - 端座位→いす(2人介助)／端座位→いす(1人介助)
- ◎ 動きの重要性について





Menschen bewegen - Perspektiven geben

www.viv-arte.com
www.lac-hc.co.jp